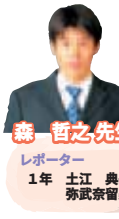
新人登場



森　哲之先生

レポーター
1年　土江　典子
弥武奈留美

美術棟2階、墨の良い香りが漂う、のれんのかかった研究室。いつもは物静かだけどしゃべり出したらとまらない、森哲之先生にインタビューしました。

○初教の学生の印象はどうですか？

↓すがすがしくて、明るく、元気がよい！　スポーツテーなどの行事での盛り上がりがいいですね。何事にも生懸命に取り組んでいる。教師を目指して頑張っている熱心な姿を頼もしく思います。

○いつころから書道の先生になろうと決められたのですか？

↓大学の時、本格的に書道を志そうと思いました。学生時代は新潟にいて東京まで出やすかったので、古き良き書や先進の美術、ジャンルを問わずいいものをたくさん見に行きました。そして、次第に芸術、とりわけ書の世界にどっぷり浸かっていました。

○作品や授業に込める思いを教えて下さい。

↓書の作品を作るときには、オリジナルなものを心掛けています。今までにない新たな書を生み出していきたいと思っています。また、書写書道演習の授業では、書写の指導力を養ってもらい、書の創造にも触れてもらいたいと思っています。

○児童教育コース書写書道専修の目指すところは？

↓広く書の文化について考え、国語科書写教育のあり方を考えていきたいですね。

○先生の地元・福岡久留米の方言を一つ教えて下さい。

↓うくん。なーんばしっとー（何をしているのですか）!!

上村加奈先生

レポーター
4年　岡本　理那
宮本　智子

19年間の保育現場の経験を生かし、"生の声"を本年度から私たちに教えてくださる上村先生にインタビューしました。

○それでは最後に、初教の学生に一言お願いします。

↓今、自分が持っている目標のほかに、もうひとつ純粋にのめり込めるものがあるといいですね。とことん何かにはまりましょう。自分の思いを発揮できる世界があると楽しいですよね。

いつも書について熱心に教えてくださる先生とは違う面が見られて、私の中の森先生のイメージが変わるインタビューとなりました。

学　先生は、長年、保育士として働かれていましたが、やはり大変な仕事ですよね：

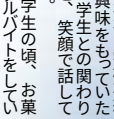
上　大変なこともありますが、子どもの目がキラキラしていることが活力となり、がんばれるんです。1＋1＝2ではない部分がたくさんあり、試行錯誤の日々でした。

学　では、そんな大変さをふきとばすリフレッシュ法を教えて下さい。

上　絵やミュージカルを見るのが好きなんです。長い休みがとれると、旅行に行っていました。海外にもよく行き、違う文化に触れることにより、感覚や常識が変わるんですよ。聞くだけではなく、経験することが大切ですよね。でも、今は忙しくてなかなか行けないんですけど…。

学　では、学生に一言お願いします。

上　忙しいと思いますが、今しかできないことをしっかり楽しんで下さい。



上村先生の話を聞いて、おっとりして見えるけど冒険家であることも分かり、意外な一面を見ることができました。ここだけの話として、今だから笑って話せる失敗談も聞かせていただきました。何でも話していらっしゃる先生なので、皆さんも2号館3階の研究室へ足を運んでみて下さい。

青山佳矢先生

レポーター
2年　田口　陽子
3年　木坂　麻美

この春から私たち初等教育学科の事務全般の仕事をしてくれている青山先生を取材してきました。私たちの質問に笑顔で何でも答えてくれる先生は、とにかくかわいくて親しみやすくて、先生だけれど、"先輩"のような身近な存在に感じました。

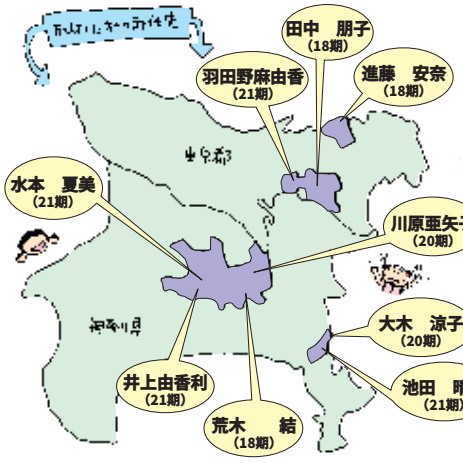
先生は教育心理学コース卒業です。今は、学科や学会の仕事、保育実習の仕事で忙しく働いておられます。ともと「子どもを横から見たかった」と言われ、学校事務の仕事にも興味をもっていたそうです。「学生との関わりが楽しい」と、笑顔で話して下さいました。

先生は、学生の頃、お菓子屋さんでアルバイトをしていたそうです。可愛らしい雰囲気がお菓子屋さんにぴったり☆だと思いました。「勉強もアルバイトも両立できたんですね！」と感心していたら、それだけではなかったのです！先生は、大学の学友会活動でも大学祭実行委員会に入っていて、みんなの中心となって活躍しておられました。大祭の仕事をやっていて色んな力がついたそうです。自分が中心となって人を引っ張っていく力、自分で何が大事かを考えて行動する力など、自分の能力をUPさせることも、楽しみながらされていたそうです。このことが、先生のしっかりした雰囲気を作っているのかな？と納得しました。

また、大学生活全般に関しては、「2・3年生で一番楽しかったのは大祭と実習だった」と言われました。私たちにとっては、不安半分、期待半分の実習…。「何とかなるから頑張ってネ☆」と励ましてもらいました。

最後に、私たち学生に向けて、「大学生にしかできないことをしっかりして欲しい。勉強もだけど、たくさん遊んでおいて欲しい」とアドバイスを下さいました。先生の所はとても行きやすく、何気なく訪ねてみると、きっと笑顔で出迎えてくれると思います。2号館4階の青山先生のお部屋を是非訪ねてみて下さい。

究撃レポート



関東のみんなはますます元気です！

6月中旬、東京都へ向かった私たち（山田悦子14期生、中島雪絵18期生）は、関東地方で教職に就いた懐かしい卒業生9名と再会することができました。（たくさんの卒業生が関東で頑張っているとわかっていながら、連絡が不十分となってしまいました。ごめんなさい。）

わずかな時間でしたが、かつて可部の町で語り合った時と変わらぬ雰囲気の中、皆さんの近況やこれまでの思い、これからの夢を語っていただきました。

○現在の近況

教職に就いてからの経験は、2ヶ月目の方から5年目の方まで様々です。皆さんは、日々の授業の準備、毎年増える校務、保護者・同僚の先生方と、そして児童との人間関係作りと多忙を極めています。そんな中でも、「同僚の先生方に助けていただいている」「保護者はとても協力してくださる」と、周りに感謝する気持ちを大切にされています。

皆さんからの話を聞く中で、何よりも嬉しかったことは、この仕事に就いたやりがいをかみしめていたことです。どの方も前向きで誇らしい顔つきをしておられ、教職への自信や逞しさを感じました。本当に夢が叶ったんだなぁと思いました。

○関東地方に来て感じていること

・教育はどこでも（地元でも地元でなくても）基本は同じだと思うし、認めてもらえて嬉しい。

・「都会の子ども」に不安感・恐怖感を持っていたが、子どもの純粋さに安心している。

・実家が遠くなったが、近隣で同じ仕事をする卒業生同士で悩みを相談するなど助けあえていることは心強い。（月1回ペースで集まったりしている。横だけでなく縦の関係もつながっている）

・交通の便が良く、観光地などがたくさんある（リフレッシュの場が多い）。

・「勉強したい」と希望する内容の教員研修が豊富にある。

・学生時代までのように、新しい友達ができにくい。

・同僚など、一緒に働く教員の出身地は様々で、他県の人との交流がたくさんある。

○後輩へアドバイス

・人生何が起こるかわからない。チャンスがあるなら生かしてみるべき。（勢いも必要）

・新卒で本採用になると、現場経験は3年生での実習4週間のみ。だからこそ実習で得た経験は大きく、今も生きている。これから実習に臨む方は大切にして欲しい。また、実習以外で現場の今を知るため、また、教育の動向をつかむために、学生でも参加できる現場でのボランティアや勉強会などに積極的に参加することをお勧めします。

関東の教員採用試験に合格した文教出身者の中には、数年間関東で勤めた後、地元や地元近隣の採用試験に合格し、頑張っている方もいます。

今回集まって下さった方は将来について、地元に帰るかどうか考えつつも、まずは今いる場所で精一杯やりきると語る方、日本人学校の教員を目指そうと考えている方など、現状に満足せず、さらに歩んでいこうとする意欲を感じました。関東で活躍される皆さん、これからも頑張って下さい。皆さんの活躍ぶりから私たちも文教の誇りを確認しあった取材となりました。ありがとうございました。

ゼミ紹介

図工専修

図工専修では、主に作品制作をしています。2年生の時には鉛筆デッサン、水彩画、ステンシルをしました。水彩画は実際に平和公園へ出かけ、スケッチをしました。この秋にもまたスケッチへ行く予定です。

私たちは今、油絵の勉強をしています。制作中はとても楽しく、いろいろな表現方法を知ることができ、技術も身に付きます。

指導をしてくださるのが、フクロウ好きな佐伯先生です。優しくて謙虚だという印象を持っている方が多いと思います。制作に対してはとても細かく熱心に指導してくださいます。先生自身も絵を描かれていて、先日、作品展に入選されました。

この佐伯先生のもとで、図工専修は日々腕を磨いています。

幼教図工ゼミ

私たち幼教図工ゼミは、佐伯先生の丁寧な指導のもと、5人で学びを深めています。なごやかな雰囲気の中で、先生の用意してくださるお菓子を囲み、みんなで楽しく行っています。ゼミの時間は各自レジュメを持ち寄り、質疑応答をします。他のメンバーからの質問・感想を聞くことができ、とても勉強になります。個々が異なるテーマについて研究しているので、いつも新たな発見があり、有意義な時間を過ごしています。私たちが卒論のテーマとしているものは、絵本、折り紙、就学前の子どもの絵や造形活動などです。

佐伯先生のあたたかいまなざしを受け、私たちは自然と笑顔で活動することができています！

卒業生からのたより

初教12期生　市原　弥生（吉田）
初教を卒業して長崎で6年間教員をして、その後結婚とともに退職し、横浜へ…2歳4ヶ月になる息子と親子3人仲良く生活しています。このはがきが届いた日に第二子妊娠がわかりました。もうすぐまた一人家族が増えます。

初教14期生　中村　純子
採用されて5年目を迎えました。山あり谷ありですが、クラスの子どもたちと出会えたことに感謝しながら学校生活を送っています。（←しかし、実際は私が怒ると子どもたちは震えてますが…笑）

初教17期生　井上　優子
5ヶ月になる娘と楽しい毎日を過ごしています。最近寝返りが出来るようになり、どんどん成長する我が子を側で見ることが出来る幸せを日々かみしめています。

初教16期生　塩川　睦美（吉武）
4月に結婚しました。もちろん先生も続けており仕事も順調です。今年は持ち上がりの4年生を担任しています。今、運動会の練習でまっくろになっています。最近シミが増えてきています…もう若くないですね…トホホ。

初教13期生　赤木　真美（小川）
北海道の教員生活を終え広島に帰って3年。子育てに励んでおりましたが、来春から再び広島で教壇に立つ事になりました。

初教21期生　住野　美穂
2歳児のクラス担当になり、子どもたちと毎日楽しく過ごしています。毎日子どもたちから新たな発見があり、多くのことを学んでいます。

初教18期生　鹿島　幸（嘉藤）
平成17年3月27日に結婚し、卒論で田村先生を悩ませていた私も、ステキな奥様になりました♡今は、仕事と家事を頑張っています～！

初教19期生　松本　安由美
社会人1年目は市内の小学校での講師を、2年目の今年は養護学校の寄宿舎指導員の仕事をいただき頑張っています。少しずつ自分のやりたかったことに近づいてきているように思います。

初教15期生　峯松　裕美（四辻）
この9月でちょうど結婚して1年になります。仕事は家業の方を手伝っています。

初教20期生　川原　亜矢子
2年目の今年は1年生34名の児童と楽しく充実した毎日を送っています。教師という仕事はやっぱり素敵な職だと日々感じています。後輩が一人でも多く神奈川に来れるよう願っています。

編集後記

T頭　K西

いかがでしたか？第8号は？…レイアウトを全面的に改訂して全く新しい機関紙が出来上がった感じです。われわれも心を入れかえて(?)ガンバリます。デザイン担当の中島さん、山田さん、石谷さん、ありがとう。

「初教かわらばん」編集スタッフ

平成18年度　初教スタッフ（五十音順）

青山佳矢／新枝　勝／有馬比呂志
植田ひとみ／上村加奈／浴野雅子
岡　利道／金舛俊作／川西正行
佐伯育郎／新宅雅和／杉山浩之
田頭穂積／徳本達夫／村上典章
森　哲之／吉田裕午／善本桂子
※前年度異動・退任等
原田正治（退職）
山下美佐子（退職）
宗森加代子（退職）

田頭穂積／川西正行　善本桂子
佐伯育郎／河村裕子／青山佳矢
山田悦子／中島雪絵／石谷桂子
岡本理那／濱田公美／宮本智子
木坂麻美／田口陽子／土江典子
弥武奈留美

おたよりください！

次の要領で原稿をお寄せ下さい。掲載分につきましては、薄謝進呈。
○文　量　800字程度
○写　真　1～2枚
○送り先　〒731-0295
広島市安佐北区可部東1-2-1
広島文教女子大学　川西正行あて
または mkawanishi@h—bunkyo.ac.jp